

校長室から応援メッセージ(その3)

令和5年7月14日(金)

記憶こそがあなたの人生

皆さん、こんにちは。明日で前期授業が終わります。前回私は、基本に戻ってあらためて目の前のことに気持ちを集中させましょう、と申し上げましたが、今回も全く同じことを申し上げたいと思います。

不安をしまい込みましょう、とも申し上げたのですが、前々回はポケットに、前回は引き出しに、と申し上げ、どちらも一杯になっているかもしれませんが。その場合、私にはしまう適当な場所をもう思いつきませんので、どこでもいいですから、とにかく目に見えないところに深くしまい込んでください。

私は20年に1回合格の確率、それは今年だ、との期待は次の年実現しました。予備校に通い気持ちが安定していたのがよかったと思います。私たちは確率の世界でなく現実の世界を生きています。どんな確率も日常生活には勝てない、これが私の得た、自分勝手な、都合のいい知恵です。

確率など無視して好きなように振舞う、と勧めているのではありません。私は電車の時間も含め一時間ほどかけて予備校に通い、授業を受けて帰る。その生活が当時の私の世界でした。確率という数字と、机に向かう自分の確かな世界と、そのどちらを信じるのか、という覚悟を言いたいのです。

私は予備校に通っていた時期が自分の人生で一番輝いて見えます。志望校に合格し、そこに至る過程として輝いているのではありません。どんな結果に終わったとしても、何か一つのことに向かい続けた姿、自分の確かな世界にどっぷりと浸ったその生活が今の私には輝いて見えるのです。

人生とは人の一生、生きている時間のことです。この時間は振り返るという形で、そして記憶という形でしか実感できません。記憶こそがあなたの人生なのです。どんなに大きな出来事も、その記憶となると喜びとか悲しみはさほどのことはなく、むしろ淡々と繰り返された日常の生活が確かな記憶としてよみがえり、そしてそこから限りない励ましのメッセージを受け取るのです。かけがえのない自分の、かけがえのない人生です。白黒つけるとか、数値で表すとか、そんなことは人生とは無縁です。皆さんの健闘を祈ります。